

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様 (Update1 対応版)Readme

2008.11.07 オートデスク株式会社

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様 (Update 1対応版)は、AutoCAD Civil 3D 2009 Update 1(以下UP1とします)上で動作する日本仕様の作図に特化したプログラムです。

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様 (UP1対応版)の機能を利用するには、以下の順序でインストールを行う必要があります。

1. AutoCAD Civil 3D 2009にUP1を適用
2. AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム (UP1対応版)をインストール

注:2008.11.07以前にダウンロードした AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様 を既にインストールされていても、AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様 をアンインストールする必要はありません。この日本仕様 (UP1対応版)は、古い日本仕様が存在していた場合、上書きインストールを行います。

この Readme には、AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラムの固有の問題や制限事項、追加情報などを記載しています。ご利用前にこのReadme全体を必ずお読みください。

この Readme には、次のトピックが含まれています。

[インストールの手順](#)

[日本仕様の利用環境に関するご注意](#)

[日本仕様のご利用方法について](#)

[日本仕様の機能に関するご注意](#)

[UP1対応版での変更点](#)

[既知の問題点](#)

インストールの手順

AutoCAD Civil 3D 2009への UP1 の適用

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム (UP1対応版)の機能を利用するには、AutoCAD Civil 3D 2009 に UP1 を適用する必要があります。

- AutoCAD Civil 3D 2009 に UP1 を適用するには、AutodeskのWEBサイト (http://www.autodesk.co.jp/civil_download)よりAutoCAD Civil 3D 2009 UP1をダウンロードし、インストールします。
- AutoCAD Civil 3D 2009 UP1のインストール方法については、AutoCAD Civil 3D 2009 UP1の Readmeを参照して下さい。

シングル ユーザ環境(スタンドアロン)での AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム (UP1対応版)のインストール

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム (UP1対応版)をインストールする場合、必要なシステム レジストリ セクションに書き込む許可が必要です。インストールを行う前に、インストールするコンピュータのゲスト許可があることを確認してください。

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム (UP1対応版)のコンポーネントをインストールするには、管理上の許可が必要です。管理上の許可がない場合は、セットアップを完了するか、または管理上の許可を必要とするコンポーネントなしでインストールを継続するようにメッセージが表示されません。許可に関する詳細は、Windows のヘルプを参照してください。

1. AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版)をインストールするには、Autodesk の WEB サイトからプログラムをダウンロードする必要があります。Autodesk の WEB サイト(<http://www.autodesk.co.jp>)にアクセスし、[製品情報]をクリックします。
2. [製品情報]ページで[AutoCAD Civil 3D]をクリックします。
3. [AutoCAD Civil 3D]ページで[日本仕様]をクリックし、AutoCAD Civil 3D 2009を選択します。
4. 表示されるダウンロード ページから、AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版) .zip をダウンロードし、任意のフォルダに解凍します。
5. Windows 上で開いている実行中のアプリケーションをすべて終了します。
6. AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版)の setup.exe をクリックします。
7. AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様(UP1対応版)の[InstallShield Wizard]ページが表示されます。[次へ]ボタンをクリックします。
8. [Readme の確認]ページが表示されます。[AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様(UP1対応版) Readme]の内容を確認後、[はい、Readme ファイルを読みました。]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。ヒント Readme の内容を印刷するには、[印刷]ボタンをクリックします。セットアップを終了するには、[キャンセル]ボタンをクリックします。
9. [プログラムをインストールする準備ができました]ページが表示されます。[インストール]ボタンをクリックし、インストールを開始します。
10. インストールが完了すると、[InstallShield Wizardの完了]ページが表示されます。[完了]ボタンをクリックし、インストール作業を終了します。

ネットワーク環境での AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版)のインストール

ネットワーク環境で AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版)を配置する
AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版)をネットワーク環境に配置するには、注意深く計画し、実行する必要があります。

ネットワーク インストールを実行する前に、次の作業を行う必要があります。

動作環境の確認:

ネットワーク、サーバ、およびワークステーションが動作環境を満たしていることを確認します。

Network License Manager のインストールとオーソライズ:

ユーザがネットワーク ライセンスで AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版)を実行するように計画している場合には、ライセンス サーバのセットアップ方法について詳細な情報が記載された『ネットワーク ライセンス ガイド』を参照してください。

ネットワーク共有を作成:

ネットワーク共有は、ネットワーク上のユーザのコンピュータで利用可能なインストール用のフォルダです。クライアント コンピュータにプログラムをインストールするためのセットアップ データを作成するネットワーク共有のフォルダが作成されていることを確認します。ネットワーク共有とは、ネットワーク上で共有されたフォルダのことです。AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版)は、共有されたフォルダ上にプログラムをセットアップするために必要なデータを配置します。

ネットワーク環境の AutoCAD Civil 3D 2009 の動作確認:

クライアント PC でネットワーク環境の AutoCAD Civil 3D 2009 が正しく動作していることを確認します。

1. AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版)をインストールするには、Autodesk の WEB サイトからプログラムをダウンロードする必要があります。Autodesk の WEB サイト(<http://www.autodesk.co.jp>)にアクセスし、[製品情報]をクリックします。
2. [製品情報]ページで[AutoCAD Civil 3D]をクリックします。
3. [AutoCAD Civil 3D]ページで[日本仕様]をクリックし、AutoCAD Civil 3D 2009 を選択します。
4. 表示されるダウンロード ページから、AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版) .zip をダウンロードし、任意のフォルダに解凍します。
5. ネットワーク上で共有したフォルダにデータを配置します。注意 AutoCAD Civil 3D 2009 のネットワーク配置とは別のフォルダに配置する必要があります。同一フォルダに配置した場合は、ネットワーク インストールが正しく行われません。

ネットワーク環境で AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版)をインストールする

1. Windows 上で開いている実行中のアプリケーションをすべて終了します。
2. ネットワーク上に配置した AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版)の setup.exe をクリックします。
3. AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様(UP1対応版)の[InstallShield Wizard]ページが表示されます。[次へ]ボタンをクリックします。
4. [Readme の確認]ページが表示されます。[AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様(UP1対応版) Readme]の内容を確認後、[はい、Readme ファイルを読みました。]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。ヒント Readme の内容を印刷するには、[印刷]ボタンをクリックします。セットアップを終了するには、[キャンセル]ボタンをクリックします。
5. [プログラムをインストールする準備ができました]ページが表示されます。[インストール]ボタンをクリックし、インストールを開始します。

6. インストールが完了すると、[InstallShield Wizardの完了]ページが表示されます。[完了]ボタンをクリックし、インストール作業を終了します。

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版)のアンインストール

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版)をアンインストールする場合は、次の手順に従ってアンインストールを行ってください。

1. [スタート]メニューから[コントロール パネル]を選択します。
2. [コントロール パネル]で[プログラムの追加と削除]をクリックします。
3. [プログラムの追加と削除]ページで[AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様]を選択し、[削除]ボタンをクリックします。
4. 「コンピュータから AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様を削除しますか?」というメッセージが表示されるので、[はい]を選択します。
5. アンインストール作業が完了します。

日本仕様の利用環境に関するご注意

J ツール メニューの表示(その1)

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様をインストール後、日本仕様機能のメニューである[Jツール]メニューが AutoCAD Civil 3D 2009 のメニューに追加されない場合があります。

その場合は、CUI[ユーザインターフェースをカスタマイズ]コマンドを実行し、[Jツール]メニューを追加してください。

- インストールを行ったユーザ以外の Windows のログオン ユーザが、AutoCAD Civil 3D 2009 を利用する場合
 - インストールを行った AutoCAD Civil 3D 2009 のメニューをカスタマイズ後、AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様をインストールした場合
 - AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様を再インストールした場合
1. 図面を開きます。
 2. CUI[ユーザ インタフェースをカスタマイズ]コマンドを実行します。
 3. [ユーザ インタフェースをカスタマイズ]ダイアログ ボックスの [部分 CUI ファイル]でJtool.cui がロードされていない場合は、 [部分 CUI ファイル]上で右クリックして [部分カスタマイズ ファイルをロード]を選択し、Jtool.cui ファイルをロードします。

《Jtool.cui ファイルの位置》

WindowsXPの場合

C:¥Documents and Settings¥<ユーザ名>¥Application Data¥Autodesk¥C3D
2009¥Jpn¥Support

WindowsVistaの場合

C:¥Users¥<ユーザ名>¥AppData¥Roaming¥Autodesk¥C3D 2009¥jpn¥Support

4. [ワークスペース]下の[Civil 3D 既定値(現在)]を選択し、
[ユーザ インタフェースをカスタマイズ]ダイアログ ボックス右側の
[ワークスペースの内容]の[ワークスペースをカスタマイズ]ボタンをクリックします。
5. [ユーザ インタフェースをカスタマイズ]ダイアログ ボックス左側の
[すべてのCUI ファイル内のカスタマイズ]の[部分 CUI ファイル]の
[JTOOLS]の[メニュー]チェックボックスをオンにします。
6. [ワークスペースの内容]の[完了]ボタンをクリックします。
7. [ユーザ インタフェースをカスタマイズ]ダイアログ ボックスの
[適用]ボタンをクリックし、最後に[OK]ボタンをクリックします。

J ツール メニューの表示(その2)

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様をアンインストール後、アンインストールを行ったユーザ以外の
Windows のログオン ユーザが AutoCAD Civil 3D 2009 を利用した場合、AutoCAD Civil 3D 2009 の
メニューに[Jツール]メニューが残っている場合があります。

その場合は、CUI[ユーザ インタフェースのカスタマイズ]コマンドを利用してワークスペースをカスタマイズ
し、現在のワークスペースから[Jツール]メニューを削除してください。

1. 図面を開きます。
2. CUI[ユーザ インタフェースをカスタマイズ]コマンドを実行します。
3. [ユーザ インタフェースをカスタマイズ]ダイアログ ボックスの
[部分 CUI ファイル]を展開し、[JTOOLS]上で右クリックして
[CUI ファイルをロード解除]を選択し、Jtool.cui ファイルをロード解除します。
4. [ユーザ インタフェースをカスタマイズ]ダイアログ ボックスの
[適用]ボタンをクリックし、最後に[OK]ボタンをクリックします。
5. ユーザ プロファイル フォルダの中に Jtool.cui ファイルが残っているので、
Windows のエクスプローラを利用してファイルを削除します。

《Jtool.cui ファイルの位置》

WindowsXPの場合

C:¥Documents and Settings¥<ユーザ名>¥Application Data¥Autodesk¥C3D
2009¥jpn¥Support

WindowsVistaの場合

C:%Users%<ユーザ名>%AppData%Roaming%Autodesk%C3D 2009%jpn%Support

Civil 3D 2009 日本仕様ツール カタログの表示(その1)

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様をインストール後、[Civil 3D 2009 日本仕様ツール カタログ]が [Autodesk コンテンツ ブラウザ 2009]に追加されない場合があります。

その際には、コンテンツ ブラウザ上で[カタログを追加]コマンドを実行し、日本仕様のカタログ [C3D Roads - JP Tool Catalog.atc]をコンテンツ ブラウザに追加してください。

【日本仕様カタログ ファイル名】

C3D Roads - JP Tool Catalog.atc

【日本仕様カタログ ファイルの位置】

WindowsXPの場合

C:%Documents and Settings%All Users%Application Data%Autodesk%C3D 2009%Jpn%Tool Catalog%Road Catalog

WindowsVistaの場合

C:%ProgramData%Autodesk%C3D 2009%jpn%Tool Catalogs%Road Catalog

<注意>

日本仕様のカタログ ファイルが保存されている場所は、オペレーティング システムの保護対象となる位置に保存されています。読み込む際には、Windows の以下の設定を変更する必要があります。

1. Windows の[エクスプローラ]を起動します。
2. [ツール]メニューから[オプション]を選択します。
3. [フォルダ オプション]ダイアログ ボックスの[表示]タブをクリックします。
4. [詳細設定]リストの[保護されたオペレーティング システムファイルを表示しない(推奨)]チェック ボックスをオンにします。

Civil 3D 2009 日本仕様ツール カタログの表示(その2)

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様をアンインストール後、[Civil 3D 2009 日本仕様ツール カタログ]のリンクが外れたイメージが[Autodesk コンテンツ ブラウザ 2009]に表示されることがあります。

その際には、コンテンツ ブラウザ上でリンクの外れた日本仕様のカタログイメージ上で右クリックし、イメージを削除してください。

日本仕様のご利用方法について

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様のご利用方法は、AutoCAD Civil 3D 日本仕様ヘルプをご覧ください。

日本仕様のヘルプは、AutoCAD Civil 3D 2009 の [Jツール]メニューから、[Jツール用ヘルプ]を選択しますと表示できます。

日本仕様の機能に関するご注意

日本仕様縦断面図

縦断面図の拡幅の帯について

AutoCAD Civil 3D 2009 の日本仕様には、国土交通省と日本道路公団(旧名称)、北海道開発局用の縦断面図の拡幅の帯を作成する機能はありません。帯枠のみ作図することができます。

縦断面図の平面線形曲率図の帯について

片押し法を利用して平面線形を作成した場合、縦断面図の平面線形曲率図の帯の緩和曲線の描画が正しく行われません。

平面線形または片勾配値を編集後の帯の再作図について

日本仕様に搭載されている国土交通省、日本道路公団(旧名称)、北海道開発局の縦断面図を作成後、平面線形または片勾配の値を変更すると、縦断面図の帯情報が更新されない場合があります。変更後の情報に更新する場合は、REGEN[再作図]コマンドを利用して図面内の情報を更新してください。

ブレーキ測点を複数設置後の帯の作図について

線形上にブレーキ測点を複数設置し、それらのブレーキ適用後の測点範囲が重複する場合、縦断面図の帯の範囲が短くなる場合があります。この場合、[縦断ビュープロパティ]ダイアログ ボックスの[グラフデータ]タブ上で、[ユーザ指定]チェックボックスをオンにし、[終点]テキスト ボックスにブレーキ適用後の測点が重複していない線形の終了測点よりも大きな値を入力する必要があります。

縦断面図の片勾配すり付け図について

以下の条件で縦断面図を作成したとき、片勾配すり付け図の勾配が不正となる場合があります。

- (1) 横断勾配の回転軸位置が平面線形と一致しないとき
- (2) アセンブリ オフセットにより平面線形と幅員中心とが一致しないとき

縦断面図に関するその他の問題について

日本仕様に搭載されている国土交通省、日本道路公団(旧名称)、北海道開発局の縦断面図を作成したとき、以下の問題が生じる場合があります。これらの問題を回避するには縦断ビューに次の帯スタイルとラベルセットを使用してください。

【帯スタイル】

国土交通省	:MLIT_PBSTYLE
日本道路公団(旧名称)	:JH_PBSTYLE
北海道開発局	:HRDB_PBSTYLE

【ラベルセット】

国土交通省 : MLIT_LABELSET
日本道路公団(旧名称): JH_LABELSET
北海道開発局 : HRDB_LABELSET

縦断図の測点帯について

縦断図の測点帯に縦断線形の終了測点が出力されない場合があります。

縦断図の帯へのジオメトリポイントの出力について

縦断図の帯に縦断線形に関するジオメトリポイントが出力されない場合があります。

縦断図の切土高(切深)、盛土高(盛高)について

計画高と地盤高とが一致する場合、切土高、盛土高ともに0.000と表示される場合があります。

縦断図のグリッドについて

以下の条件で縦断図を作成したとき、グリッドが不正となる場合があります。

- (1) 縦断ビューの始点での地盤高が主グリッド水平の表示位置と一致するとき
- (2) 縦断地盤線の一部に主グリッド水平の表示位置と一致する標高で水平区間があるとき
また、縦断ビューの終点に不正な縦線が表示される場合があります。

設計基準チェック

社団法人日本道路協会「道路構造令の解説と運用」平成16年2月に準拠し、設計速度の設定に応じて以下の項目をチェックします。

【線形】

最小曲線半径
最小緩和曲線長

【縦断線形】

凸型縦断曲線の最小縦断曲線半径
凹型縦断曲線の最小縦断曲線半径
最小縦断曲線長

横断勾配摺り付けテーブル

線形プロパティにある横断勾配摺り付けプロパティの横断勾配摺り付けテーブルには DC_ から始まる名前の選択肢を選択しないでください。

DC_ から始まる名前の横断勾配摺り付けテーブルは設計基準チェック専用の設定です。

【選択できない横断勾配摺り付けテーブル】

DC_標準値
DC_最大片勾配6.0%
DC_最大片勾配8.0%

DC_最大片勾配10.0%
DC_望ましい最小半径
DC_片勾配を付さない場合

日本仕様サブアセンブリ

小段・用排水溝付法面の作図について

小段・用排水溝付法面サブアセンブリは、設置する小段のパラメータの単位が機能によって分類されています。入力値の値が妥当でない場合、または計算領域にサーフェスのデータが見つからない場合は、コリドー モデルは正しく作成されません。

擁壁が適用された小段・用排水溝付法面のサブアセンブリについて

小段・用排水溝付法面に擁壁を設置する設定を行っている場合、用地境界線と擁壁のサイズ(高さなど)の関係が擁壁に設定を行ったパラメータ内で適用できなければ、擁壁の形状と擁壁部に接続される法面は、コリドー モデルとして作成されません。

コリドー モデルに擁壁を正しく作成できるようにするには、コリドー モデルを形成するアセンブリの擁壁サブアセンブリのパラメータを修正する必要があります。

回転軸位置を変更した標準車道サブアセンブリについて

分離車線で片勾配の回転軸を車道の中心に配置するアセンブリを作成した場合、[標準車道]サブアセンブリの中央分離帯側(道路中心線側)の端部と中央分離帯の端部が摺り付かない現象が確認されています。

日本仕様土工数量計算書

スタイルシート JPearthwork.xml を利用した XML ファイル表示について

JPearthwork.xml は、[数量算出基準]ダイアログ ボックスの[マテリアル リスト]タブの[数量タイプ]で[盛土]、[切土]として設定されたマテリアル名のみ数量表のスタイルシートとしてレイアウトします。[切土と流用土]と[土工]に関しては、レイアウト対象から除外され、数値が反映されませんのでご注意ください。

日本仕様横断面数量表

数量表に入力するデータについて

[横断面数量表作成機能]で利用する XML ファイルは、[横断]メニューの[土量レポートを作成]コマンドで作成される XML ファイルを利用して数量表を作成します。

[数量算出基準]ダイアログ ボックスの[マテリアル リスト]タブの[数量タイプ]で[盛土]、[切土]として設定されたマテリアル名のみ、横断面の数量表の切土または盛土の数値として利用することができます。[切土と流用土]と[土工]および[構造物]で算出された数量に関しては、横断面の数量表を作成するダイアログ ボックスに表示されるコンボ ボックスから除外され、表示されませんのでご注意ください。

UP1対応版での変更点

AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラムから、AutoCAD Civil 3D 2009 日本仕様プログラム(UP1対応版)への変更点は以下の通りです。

1. AutoCAD Civil 3D 2009 Update 1
AutoCAD Civil 3D 2009にUpdate 1を適用した環境に対応しました。

2. Civil 3D (AutoCAD 2009として起動)

Civil 3DをAutoCADとして起動した場合の不正のエラーが起らないよう修正しました。

3.線形測点ラベル

__国土交通省仕様20m測点.dwtで作成した線形測点ラベルのジオメトリ測点が100mピッチ測点で表示された問題を修正しました。

4. 縦断ビュー

日本仕様テンプレートで作成した図面において、図面縮尺を変更した場合に縦断曲線長および縦断曲線半径の旗揚げが平行に表示されない問題点を修正しました。

5.日本仕様テンプレート

スタイルの一部で0画層が使われていたので修正しました。

既知の問題点

縦断ビューについて

縦断ビューを分解した場合、縦断帯枠および縦断帯タイトル枠が3D面になります。

3D面を線分にする場合は、AutoCADのメニューより「修正」→「3D編集」→「サーフェスに変換」を選択し、3D面を一度サーフェスに変更し分解する必要があります。